

精神障害者看護支援プロジェクト 活動報告書

松崎緑，戸田由美子，西川薫，高濱圭子，丸山義浩
学外メンバー：赤沢雪路，岩崎みすず

1 プロジェクト発足の背景

今日の精神保健医療福祉の施策は、その基盤を精神病院における施設での医療から地域社会へと移行してきました。しかしながら、本学が所在する上伊那地域では、県立単科精神病院や私立精神病院（両方で約 500 床）が運営される一方で、当事者の地域生活の場となるのは援護寮（20 床）とグループホーム（6 床）が各 1 施設しかない状況でした。これは当事者の地域生活を支援する社会資源が不足していることを示すものです。

2004 年 2 月、駒ヶ根市の精神障害者地域生活サポートグループ（ボランティア）より、共同住居設立に向けた協力依頼がありました。精神看護学講座でも以前から当事者や精神保健医療福祉従事者への支援の必要性を感じていたため、同年 4 月、本プロジェクトを発足することにしました。

プロジェクト発足から 3 年が経過しようとしています。私たちは、当事者や彼らを支える精神保健医療福祉従事者の双方を支援することを目的に活動を続けています。

2 参加メンバーの推移

発足当時、本学教員であった赤沢雪路さんをリーダーに 6 名で活動を開始しましたが、退職により 2006 年からは松崎緑に交代し、一部メンバーも入れ替わりながら現在は 7 名で活動しています。詳細は次ページの表をご覧ください。

また、共同住居設立にあたっては、長野県伊那保健所グループホーム整備検討会や精神障害者地域生活サポートグループの代表であった松崎澄子さんと協働しながら活動を行ってきました。

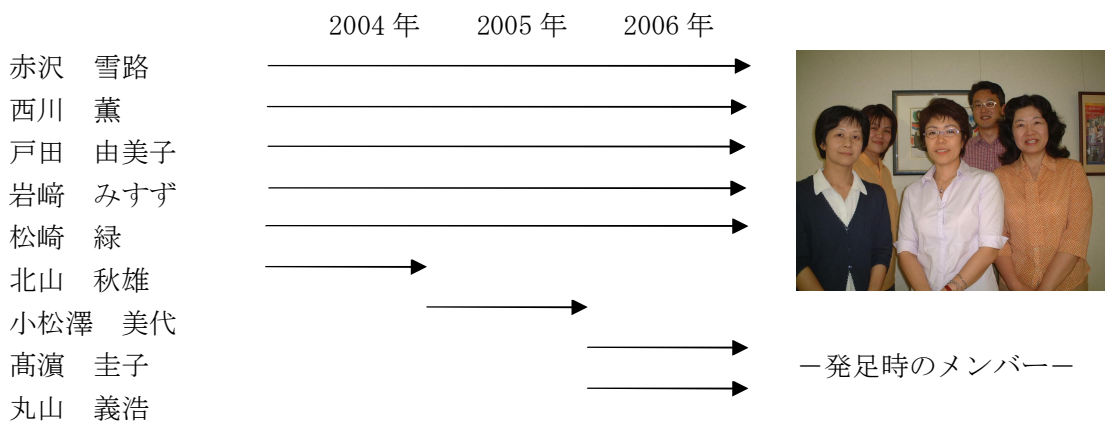
3 活動内容

<2004 年度>

1) 共同住居設立への支援

NPO 友愛会 訪問看護&ヘルパーステーション所長 長山亜紀子看護師を招いて勉強会を行い、また、長野県伊那保健所によるグループホーム整備検討会に出席しながら準備を進めました。同時に、共同住居の運営母体となる NPO 設立に向けた支援を行い、平成 17 年 3 月、NPO メンタルサポート駒の杜が発足しました。

<メンバーの推移>



2) 精神保健医療福祉従事者への教育支援

精神障害者の集団としての反応を理解するために、南信集団精神療法セミナーを開催しました。セミナーでは、グループ・アナリシス理論に基づく90分の体験グループが行われ、コンダクターは県立駒ヶ根病院院長の樋掛忠彦先生、コ・コンダクターは本学教員であった赤沢雪路さんが担当しました。月1回のペースで年10回開催し、28名の登録者は保健師、看護師、精神保健福祉士、ボランティアなどのみなさんでした。

<2005年度>

1) 共同住居「こまの杜飯坂」への支援

ついに駒ヶ根市初となる共同住居「こまの杜飯坂」が開所し、9月には入所者4名による共同生活が始まりました。その後1名が入所し、定員の5名が揃った生活となりました。プロジェクトとしては、夕食作り、宿直、資料作成、運営会議への参加など運営全般にわたる活動を行いました。



2) 共同作業所「たんぼぼの家」への支援

新しい作業として名刺の作成を行うために、パソコン導入と名刺作成の受注に関する支援を行いました。牛乳パックの椅子作りやパウンドケーキ作りなどのようにたんぼぼの家を支える作業になればと始めました。

3) 松川町酒害者回復クラブへの支援

クラブに参加し、当事者の体験を共有することで、当事者が断酒を継続できるよう活動しました。

4) 南信集団精神療法セミナーの開催

昨年同様、コンダクターは樋掛忠彦先生、コ・コンダクターは赤沢雪路さんが担当し、年間10回の体験グループを行いました。登録者は18名で、近隣の精神保健医療福祉従事者が参加して行われました。



5) 精神保健医療従事者へ教育支援

県内4病院においてコンサルテーション活動や現任教育に関する活動を行いました。

6) 辰野町健康教室への協力

地域住民を対象とした健康教室（年5回）において、精神障害や精神障害者の理解を深めるために講師として啓蒙活動を行いました。

<2006年度>

1) 共同住居「こまの杜飯坂」への支援

4月からはグループホームに位置づけられることになりました。引き続き運営全般に渡る支援を続けていますが、障害者自立支援法の施行により、この

ような小規模施設は経済的困難に陥りやすく、今後の運営方法が検討課題となっています。

2) 共同作業所「たんぼぼの家」への支援

昨年から始めた名刺の作成に関して、今年は作業所のメンバーによる名刺の作成に重点をおいて支援を行いました。最初はパソコンの前に座ることもためらっていたメンバーも慣れてくると、作業の中心を担うよう変化してきました。

3) 南信集団精神療法セミナーの開催

今年で3年目となったこのセミナーには12名の参加者が登録し、学外から2名のコンダクターの協力を得て、体験グループを月1回のペースで年10回実施しています。

4) 精神保健医療従事者へ教育支援

県内4病院において平均年4回の現任教育に関する研修を行いました。また、諏訪赤十字病院精神科病棟における事例検討会を立ち上げるための支援を行い、1月に第1回目を開催し、11名の看護師が参加しました。今後、2、3ヶ月に1回のペースで続けていく予定です。

5) 地域住民を対象にした活動

昨年に引き続き、辰野町主催の健康教室（年5回）において、講師として精神障害や精神障害者の理解を深めるための啓蒙活動を行いました。また、飯島町主催の精神保健学習会（年3回）において、育児中の母親を対象にリラクゼーションを目的とした学習会を行いました。

4 研究活動

「共同住居入所の体験に関する研究」を行っています。これは当事者とご家族、支援者を対象としたもので、今後の共同住居入所者への看護や、当事者の入所後の支援に役立てることを目的としています。なお、本研究は長野県看護大学特別研究費補助金の助成を受けて実施しています。

<2004年度>

精神障害者の地域生活看護支援に関する研究－長野県内における社会復帰施設の調査を通して－を実施しました。詳細は本学HPの看護地域貢献研究部門をご覧ください。

<2005年度>

「共同住居入所の体験に関する研究－当事者、家族、援助者の視点から－」に関して、文献検討、データ収集を行いました。

<2006 年度>

共同住居入所の体験に関する研究—当事者、家族、援助者の視点から—に関して、データの分析を進めています。

今後は、「共同住居入所の体験に関する研究」をまとめ、当事者の「共同住居入所後の体験に関する研究」も行っていく予定です。

連絡先：松崎 緑

TEL/FAX 0265 - 81 - 5177

E-mail midori@nagano-nurs.ac.jp